

チームにおける理想と現在のリーダーの違いが個人の満足感に与える影響

発表者 内村奈緒子

指導教員 加藤 敏弘

キーワード：リーダー・プロトタイプ論、PM理論、満足感

1. 緒言

競技スポーツ集団におけるチームには、それぞれ1人あるいは複数のリーダーが存在している。それらは集団外部発生的リーダーと集団内部発生的リーダーの2つに分けられる。集団外部発生的リーダーとは選手外のリーダーで、主に監督やコーチのことである。それに対し、集団内部発生的リーダーは選手内から現れるリーダーのことで、キャプテンがこれにあたる¹⁾。

競技スポーツを長く続けている選手は、現在までにおいてさまざまなリーダーと関わってきている。その中で、自身が最も理想とする、あるいは影響を受けたリーダーは強く印象に残り、現在所属するチームのリーダーとの比較の対象となると考えられる。ロードとマハーはそれをリーダー・プロトタイプ論によって説明している。これによると、フォロワーのリーダーに対する評価は、フォロワー自身が持つ、リーダーの知的能力、技術的能力、行動から外見、性格などさまざまな面で理想的なイメージ像であるリーダー・プロトタイプ像によって行われるとしている。フォロワーは自らが持つリーダー・プロトタイプ像と現実のリーダーを比較し、両者が整合していればリーダーへの評価は高く、支持も強くなり、整合していなければ評価は低く、支持も弱くなるとしている²⁾。

本研究では、理想のリーダーと現在のリーダーを比較した際、両者間の違いにより生じたリーダーの評価への影響が、さらにチームに対し影響を及ぼすのかを検討することを前提に、メンバー個人のチームへの満足感との関係性を明らかにすることを目的とした。

2. 研究方法

2-1 対象者

I 大学のチームスポーツ集団である運動部に所属する大学生および大会への出場資格を持つ大学院生 214 名を対象とした。協力を得られた運動部はバドミントン部、卓球部、ソフトテニス部、硬式野球部、軟式野球部、ラグビー部と、男女それぞれサッカー部、バスケットボール部、バレーボール部、ソフトボール部、ハンドボール部、ラクロス部の 18 チームであった。

2-2 調査時期

いずれの部活動も 2011 年内の主要な大会を終えていた 2011 年 12 月 7 日～17 日の間に調査を実施した。

2-3 調査方法及び調査内容

全 21 項目からなるアンケートを作成し、チームごとに配布した。現在のリーダーと理想のリーダー像の違いの測定に関しては、三隅の PM 指導行動測定尺度を運動部活動用における選手用に作成し、使用した³⁾。現在のリーダーに関しては、指導者に

限らず「最もリーダーシップを発揮している人物」を想定するよう指示した。理想のリーダー像に関しては、具体的人物または抽象的なイメージのいずれかを想定したのかを区別する項目を設けた。また独自に性別、競技レベル、チームの指向型、チームへの不満感に関して回答する項目を設けた。

2-4 評価方法

競技レベルに関しては、各競技の連盟の成績を「1. 上-上」から「9. 下-下」の 9 つにわけ、各チームの最も新しい大会およびリーグ成績結果を対象とし分類した。

目指す目標や方針、雰囲気などがチーム内でまとまっているかによる影響を測定するためにチームの指向型を回答する項目を設けた。回答者には「1. 競技指向型」「2. エンジョイ指向型」「3. どちらでもない」のいずれかを選択させ、各チームの回答の標準偏差を求め、チーム指向型統一性とした。

チームへの不満感に関しては「1. 満足している」から「5. 不満である」の 5 つのいずれかを選択し、「4. やや不満である」「5. 不満である」と回答した人数の各チームでの割合を求めた。

各チームのメンバー内において、最もリーダーシップを発揮していると認識されている人物が統一されていないケースも考えられたため、リーダーと認識されている人物が統一されているかによる影響を測定するために、回答者には想定した現在のリーダーの役職を選択させ、各チーム内で標準偏差を求め、リーダー認識統一性とした。

性別に関して、全体で「1. 男子部」「2. 女子部」「3. 男女混合部」の 3 つの部活動タイプへの分類と、全体の男女での分類を行った。

競技型に関して、各部の競技を「1. ゴール型」「2. ネット型」「3. ベースボール型」に分類した。

2-4 分析

統計ソフト SPSS を用いて、各部ごとに現在のリーダーと理想のリーダー像の P 得点と M 得点の平均値及び標準偏差を求めた。両平均値間の距離を数値で明らかにし（以下 d 値）、競技レベル、チーム指向型統一性、チームへの不満感、リーダー認識統一性、部活動タイプ、性別、競技型との関係性を検討するために各相関係数を算出した。

3. 結果と考察

3-1 現在と理想のリーダー像の違いと各変数の関係性

各質問項目と d 値の相関係数を算出したところ、以下のような結果を得た。

図 1 は競技レベルと d 値の関係性を表している。2 変数の相関係数は -0.71 で、有意ではないが負の相関関係が示された。これにより現在と理想のリーダーの違いが小さいほど、チームの競技レベル

が高いということが示唆された。

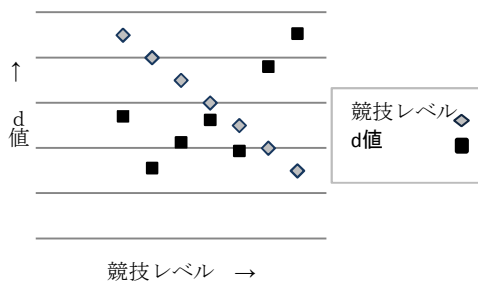


図1. 競技レベルと d 値の関係

表1 d 値と各変数の相関係数

	度数	相関係数	有意確率
競技レベル	7	-0.711	0.073
チーム指向型統一性	18	0.204	0.416
不満感	14	0.569	0.034
リーダー認識統一性	6	-0.002	0.996
部活動タイプ	3	-0.735	0.475
性別	2	1	-
競技型	3	-0.257	0.834

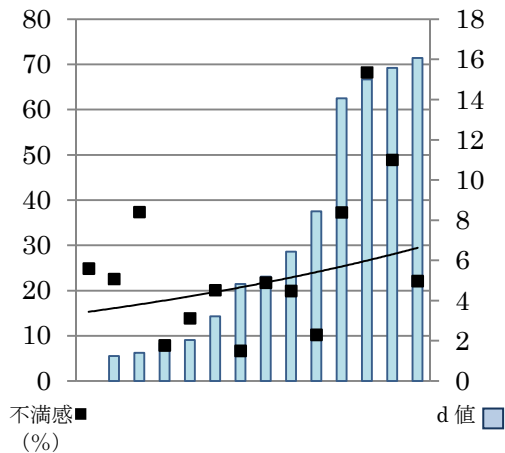


図2 チームへの不満感と d 値の関係性

また、表1において d 値と不満感の相関係数が、0.569 と高い相関が見られた。また、図2において、チームへの不満感と d 値の関係性に一定の相関が得られたことよって、現在のチームのリーダーと理想のリーダー像の違いが大きいほど、チームに対する不満感が高くなるという結果が得られた。なお、有意水準は5%とした。

3-2 理想のリーダー像のチーム内での存在による影響の検討

理想のリーダー像がチーム内に存在するかどうかによる d 値と各変数の関係性を検討するため、理想のリーダー像が「具体的な人物で、現在のリーダーと一致している群」「具体的な人物で現在のリーダーと不一致な群」「抽象的なイメージ像の群」の3群に分けた。それぞれの度数、距離、指向型、

不満感は以下の表のとおりである。

表2. 理想のリーダー像別にみる d 値、指向性、不満感の関係

理想のリーダー像	度数	d 値	指向型	不満感
具体的人物	一致	11	2.2	45.5
	不一致	58	6.0	56.9
抽象的イメージ	142	5.2	53.2	25.5

※ここでの指向型はチームの指向型統一の割合を表したものである。

今回の調査における現在のリーダーと理想のリーダーが一致していると回答した者のすべてにおいて、「現在のリーダーはキャプテンである」と認識していた。また、表2から分かるように、現在のリーダーと理想のリーダー像が一致している群において、チームに対して「やや不満がある」「不満がある」と回答した者はいなかった。なお、現在のリーダーと理想のリーダーが一致しているにもかかわらず、d 値が0ではないのは、現在のリーダーが理想のリーダーではあるが、多少とも直してほしい点があるなどといった場合が考えられる。

4. まとめ

現在のリーダーと理想のリーダー像の違いによる個人の満足感に関して考察した結果、以下のことが明らかになった。

- ①現在のチームにおいて、自身がもっとも理想とするリーダーが存在している場合、チームに対し不満を持つメンバーは少なく、存在していない場合はチームに対する不満をもつメンバーが多くなる。
- ②競技レベルが高いチームは現在のリーダーと理想のリーダーに対する評価の差が少なく、競技レベルが低いチームは現在のリーダーと理想のリーダーに対する評価の差が大きい。

5. 引用参考文献

- 1) 村井剛、猪俣公宏(2010) 勝利志向型スポーツチームにおける理想のキャプテン像について 実験社会心理学研究 第50巻1号 28-19
- 2) 池中正司(2002) リーダーとフォロワーとの相互影響関係の視点から捉えたリーダーシップの研究 — 日本郵政公社への調査を中心にして 岡山大学大学院社会文化科学研究科学紀要 第24号 62-9
- 3) 堀洋道監修、吉田富二雄編(2001) 心理測定尺度 — 人間と社会のつながりをとらえる〈対人関係・価値観〉—
- 4) 吉田 俊和・松原 俊浩編著(1999) 社会心理学 個人と集団の理解 ナカニシヤ出版
- 5) 三隅二不二(1986) リーダーシップの科学 指導力の科学的診断法
- 6) 白樫三四郎(2006) リーダーシップ研究史における三隅二不二とフレッド・F・フィードラー 甲子園大学紀要 No. 34